



トラウト
リバー&レイク
[特集]
に行こう

Comments by Kotaro Ebina
Photographs & Text by Kenji Nishii

大魚を育む洞爺湖 ブラウン91cm!

洞爺湖の冬季解禁期間の終盤、刺激的な情報が飛び込んできた。素晴らしいコンディションの90cmオーバーのブラウンは、支笏湖でもめったにお目に掛かれないド迫力。見事手にした大学生、鮫名康太郎さんに、当日の様様をうかがった。



3月中旬にキャッチされた、同湖では珍しいブラウントラウト。91cm、胴回りは58cmあった



おそろくメスだろう。大ききの割りに老獪な雰囲気はさほどなく、良好な環境のなかで成長したことがうかがえる。尾ビレの下側にはスリ切れた跡があった

幸運を引き寄せたのは、恵庭市の大学生、鮫名康太郎さん。釣れたのは、洞爺湖では珍しいターゲットといえるブラウントラウト。コンディションのよさからサイズ以上に見えた、驚きの91cm! 「デカイ!」、「何じゃこりゃ〜!」、「化けモン!」、「夢見てんのコレ!」。居合わせた皆から次々と感嘆の声が上がり、穏やかだった午後の湖畔は歓喜の渦に包まれた。

ポジティブなポイント移動

その日は風が弱く、穏やかな天候だった。ある程度波があるのを好む人なら、ハードと判断しそうな状況だった。しかし、前後数日のうちでは高めの気温が味方してくれたのか、朝イチからけっこうなサイズが見られた。ほどなく、仲間4人のうちのひとりが、50cm弱のサクラマスをキャッチ。状況は悪くない。皆のテンションは上がっていた。最初のポイントで2時間ほどキャスト。そこでねばってもよかったが、あえて移動することにした。

次のポイントへ入ると、ほどなく湖面は鏡になった。そこで鮫名さんはセ

夢じゃない

洞爺湖の冬季解禁期間は12月1日~3月31日。今季は解禁直後の12月2日、苫小牧市の矢野元基さんが71.5cmのスーパーレインボーをキャッチ。本誌162号を飾ってくれた。そして、禁漁が近づいてきた3月中旬、またも刺激的な情報が飛び込んできた。



解禁最終日の3月31日、鮫名さんは恵庭市の釣り仲間、武田直也さんと洞爺湖へ向かった。朝イチはさざ波のよいコンディションだった



午前中、車で移動し、3カ所をめぐる。91cmが釣れた日よりも寒く、反応は得られなかった。午後は湖岸を広く歩き、初めてのポイントを見て回った



鮫名さんは12月1日と2日も釣行し、2日に57cmのニジマスと56cmのアメマス(写真)を釣っている

ミルアーをキャスト。ホットケでスマホをチェックしていた。そのとき、視界の片隅に60cmクラスのニジマスが悠然と泳いでいるのを発見。ベタナギでもチャンスはある。そう考え、手を替え品を替え、キャストを繰り返した。

その後、特段の反応は得られなかった。それでもあきらめず、昼食後、次なるポイントへ。湖の南東部、東湖畔と呼ばれるエリアの小ワンド。ドラマはそこで待っていた。

外れなくてよかった!

小ワンドを形成する岬の先端付近に立ち、ワンドの内側、岸寄りにキャスト。スプーンをフリーフォールで着底させ、その後、ジャーク&テンションフォールを繰り返した。その2投目の2ジャーク目。「根掛かり」と思った……。

ルアーを外そうと、軽くチョンチョンとロッドをあおってみる。外れない。そのとき、軽くクンと手応えがあったのだが、風にあおられていたため、生命反応とは気づけなかった。ちょっと強めにあおれば外れるかもしれない。それを試したとき、今度はクンクンと反応があった。最初のクン、次



鮭名さん(右)と、ランディングを手伝った釣り仲間の武田さん。2人とも昨春高校を卒業し、武田さんが運転免許を取得。移動手段を得て、この1年間、2人で各地に釣行してきた。すでにベテラン顔負けの釣果を得ている

奉納と御利益!?

今回の1尾には、いくつかのキーワードがある。ひとつめはベタ底ねらい。洞爺湖のメインターゲットは広範囲を回遊するサクラマスと、カケアガリ〜シャローエリアに居付く、または回遊するニジマスと考えられている。このため近年、それらを効率よくねらうタクティクスとして、表〜中層のタダ巻きが有効と語られている。

鮭名さんもそれを知ってはいた。しかし、それにとらわれなかった。前出の57cmのニジマスも、釣れたのはボトムだった。活性が低そうなときはボトムもねらうべき。そう考えている。

徹底したボトムねらいは支笏湖のブラウンに効果的と知人に教わり、実践してきた。ブラウンは洞爺湖ではポピュラーではないが、結果的にはそれが幸運を引き寄せた。

キッチリ着底させるボトムねらいでは、やはり根掛かりが避けられない。多くの人が恐れるほど根掛かりが頻発するわけではないが、それでもこれまで、それなりの数を“奉納”してきた。しかし今回、充分すぎるほど大きな“御利益”を得た。

大魚を引き寄せた好奇心

今季の解禁最終日、鮭名さんは武田さんと再び洞爺湖へ。その釣行に同行させていただいた。季節が逆戻りし、雪も舞う寒い日で、残念ながら、釣果には恵まれなかった。それでも、終始楽しそうにロッドを振る姿が印象的だった。

2人はこの日、4カ所をめぐり、これまで行ったことのない新たなエリアの開拓もした。溪流の釣りが好きで、釣り上がり、次はどんなポイントが現われるのかというワクワク感が楽しく、湖や海でも、そんな釣りを実践している。進むたびに現われる新たなポイントをよく観察し、その都度ねらい方を



このネット、よく見ると……、じつはアラスカネットを加えたもの。大学生ならではのアイデアながら、モンスタブラウンには小さすぎた!?

のクンクンはきっと、ロッド操作を嫌がっていたのだろう。その直後、ドラッグが鳴り始めた。根掛かりじゃない!

「来た!」。いつも動画を撮り、ランディングを手伝ってくれる相棒、武田直也さんに呼び掛けた。あらかじめ調整しておいたドラッグが引き出され、一進一退の時間が続く。解禁2日目、57cmのニジマスをキャッチしたときと同じドラッグ設定だったが、浮いてくる気配はない。

それでも、離れた場所から駆けつけた武田さんが、最初に魚体を視認。「ブラウンだ。デカイ!」と声を上げた。その後、鮭名さんも魚体を確認。80cmはあると思った。それでもあせらず、ドラッグは最初の設定のまま、最後まで慎重にじわじわと寄せた。

足もとのカケアガリ付近に並ぶ、とがって見える岩が不気味だった。ラインがふれればアウトだろう。しかし、運よくそのゾーンをあっさりクリア。最後は武田さんが操るネットに、意外なほどスムーズにスルリと滑り込んだ。ヒットからランディングまで、10分近く掛かっていた。

午後は雪に見舞われたが、2人は黙々とキャストを繰り返した。武田さんはフライ。湖岸を歩いてドンドン進み、新たなポイントを探索した



この日はボトムをメインでねらった。スプーンをフリーフォールで着底させ、その後、ジャーク&テンションフォール。カケアガリ付近に来るまでは毎回着底させる。手前側は根掛かりの危険性が高くなるので、底からやや上を通す





91cmのヒットラー。D-3カスタムルアーズ『D-3カスタムスプーン』12.5gのCGY。フックは、がまかつ『TR-21(シングル)』#1/0

考える。結果に結びつかないことや根掛かりなど、うまくいかないことも多い。でもそれは無駄ではなく、次の釣行の糧となる。そもそも無駄などとは少しも思っておらず、むしろそれを楽しんでいる。「おお、このポイントいいねえ!」「釣れそう!」。この日もそんな言葉を交わしながら、黙々と進んでいった。

インターネット上の情報なども参考にはする。しかしそれはきっかけとして利用する程度。そこからの新規開拓や、現場での自身の判断を、楽しみながらごく自然に実践している。あまり人が入っていないなさそうな場所や試していないだろうタクティクス。それをやってみるちょっとした“冒険”こそが、何より楽しいという。

鮭名さんのロッドは7フィート2インチ。湖のトレンドからするとやや短めといえる。これは、学生ならでは汎用スペックという事情もある。しかし、支笏湖でも洞爺湖でも、遠投はさほど重視しておらず、カケアガリ付近を重点的にねらうなら不足はなく、む

しろ扱いやすい。無闇な遠投は効率を悪くする場面も多いと考えている。

ドン深の場所で遠投しても、釣れるのは結局近場のカケアガリ付近ということが多い。それならズバリ、核心部を探ったほうが、効率がよいのではないかと。そんな考え方でキャスト位置を選んでいる。今回のブラウンの場合もフルキャストはしていない。20~30m程度のキャストできた。90cmオーバーは、意外にも近場にいた。

ラインはナイロン10ポンド。PEなら、最初の「クン」をアタリと察知できたかもしれない。しかし、皮一枚のシビアなフッキングでランディングできたのは、ナイロンの柔軟性が味方してくれたのかもしれない。

洞爺湖では近年、毎年のように、ほかのフィールドではめったにお目には掛かれないレベルのモンスターがキャッチされている。洞爺湖は間違いなく、巨大魚を育む潜在力をもつ、国内有数のフィールドといえる。今度は誰が、その幸運を手にするか。夏の解禁日は6月1日。期待が高まる。🍣



湖ではスプーンの出番が多い。その割合は全体の7割くらい。10~18gを愛用している



近場にワカサギの姿が目立つときはミノーを試してみる。アピール系のカラーが多く、ピンクが大のお気に入り



鮭名さんの使用タックル。ロッドはシマノ『カーディフNX S72L』、リールは同『アルテグラ2500』、ラインはナイロン10ポンド、スナップスイベルを介して接続

洞爺湖遊漁規則(陸釣)

- 遊漁期間 6月1日~8月31日、12月1日~3月31日
- 遊漁時間 午前4時~午後7時
- 遊漁料 日券1,200円、年券20,000円
- 洞爺湖漁業協同組合 Tel.0142・66・2312
- 洞爺湖町産業振興課 Tel.0142・74・3005